

# かきくけ航海日誌

滋賀県立びわ湖フローティングスクール  
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号  
<http://www.uminoko.jp/>



甲板そうじ

「みずうみに学んで 世界の明日をみる」

「かきくけ航海」を生み出そう！

合言葉 か・・・考える き・・・気づく く・・・工夫する  
け・・・継続する こ・・・行動する

## 「PORT (ポート)」考

【所長 新庄 正幸】



「PORT」にはいろいろな意味があります。「港」が一番に思いつきます。空港や宇宙基地の意味もあるそうです。「うみのこ」の船籍港は、大津港です。船尾にある大津はその意味です。4階操舵室入り口横にある船舶国籍証書には、他にも「126469」の番号が明示されています。これは、「うみのこ」の登録番号で、世界に一つしかありません。また、「PORT」には「左舷(げん)とか舷(げん)窓」という意味もあります。つくづく、船に関係のある言葉

なのだなと実感します。

さらに、関連する単語として、「サポート」や「ラポート」や「レポート」も教育の世界では大事です。広辞苑から「サポート」の意味を引くと、「支えること・支持・支援・助け」とあります。「ラポート」(ラポール)は、フランス語で、「つながり・架け橋」という意味があります。カウンセリングにおいては、人と人との間がなごやかな心の通い合った状態であること、親密な信頼関係があることが重要です。

「レポート」は日常茶飯事で、「ほうれんそう」(報告・連絡・相談)は、よく聞くキーワードです。さらに、「かく」(確認)が徹底されると鬼に金棒です。フローティングスクールでは、「ほうれんそうかく」も合言葉の一つとしてしていますし、インシデントレポート(「ヒヤリ・ハット」した事象)は、殊の外大事にしています。所員の危機管理能力、危機察知能力を高め、いつ・どの航海でも起こりうる「ヒヤリ・ハット」の防止に努めているところであります。

我々フローティングスクール事業に携わるものは、港港を巡ることの意味を噛みしめ、県内の7つの出・帰港地が子ども達にとって母なる港であってほしいと願います。そのために所員は、サポーターさん(左上写真)共々、日々のレポートを共通理解・実践しながら、現場の先生方や県内全域の子どもたちをサポートし、ラポートの関係でありたいと考えています。前号に引き続き、学校関係者の所感の一端を、次頁に紹介させていただきます。

### かきくけコーナー

学校代表である管理職の先生方のご挨拶を聞かせていただく機会が、今年度前期に8回ありました。私の今までの132回乗船の中でも、印象的な言葉が数多く胸に刻まれています。例えば、「二日間の『うみのこ』での30時間は、減るのではなく積み上げていくもの」「魔法の船『うみのこ』の力を借りて、友情を深める。」「二日間で学んだことやたくましく立派に成長した自分を、学校生活で存分に生かすこと」「『おかげさまで』の気持ちを忘れず、『湖の子』として巣立って行ってほしい。」等々、豊かな心を育む投げかけに学ばさせていただいております。

### 乗船前の学習 (校区の特性や既習事項からF Sの学習につながる課題を見つける。)

例・安曇川めぐり (安曇川を学校前から河口付近までたどり、水質やプランクトンについて調べる。)

の時と、琵琶湖の水質やプランクトンとのちがいを実体験を通して理解できた。

- ・「川のきれいさの基準」(プランクトン、透明度、魚の数や種類、昆虫など)となるものをもとに、琵琶湖に流れ込む地域の川(乗馬川)調べを行った。その上で、琵琶湖の水質を自らの目で確かめることをめあてにした。
- ・「F Sを10倍楽しむ方法」と題し、知りたいことについて調べ学習を進め、発表会で情報を共有させた。一人ひとりが本当に知りたいテーマを持って学習に向かうようにした。
- ・和邇川の上・中・下流ごとに生物指標や透視度計を使い水調べをし、下流になるほど、水の汚れがひどくなることに気づき、その先に続く琵琶湖の水質について興味を持った。

○航海で設定した学習テーマに関して、各校それぞれの学習展開をしたのち、学習のしおりの「学習のめあて」を各自が記入し、航海に臨む。



### 乗船後の学習 (航海において生まれた課題についての発展的な学習)

例・実際に経験してみて、分からなかったことや新たに出てきた疑問等について、もう一度調べ直し、琵琶湖の環境学習を深めている。

- ・知っているようで知らなかったびわ湖や滋賀県に対する知識を学び、興味を深めることができた。
- ・自分たちが考えた環境保全の取り組みを他の児童にも伝えようとしている。
- ・発表会では、「琵琶湖の雄大さ」「琵琶湖が私たちの暮らしに深く関わっていることへの気づき」「琵琶湖を守っていこうとする決意」などを友だちに伝えようとしていた。
- ・自分たちの知らないびわ湖を見ることにより、「もっと調べたい。」という思いを持ちながら事後学習に取り組んでいる。
- ・航海前は、それまで学習していた地元の川と琵琶湖との関連を考えにくかった児童もいたが、水調べでの比較や「学習のまとめ」で、その繋がりについて考え、そこから新たに見つけた課題に対して、主体的に学習を進めている。

### 学校代表者等の所感

例・事前学習を充実させることで、自覚的に課題意識をもって乗船したことが、現在も総合的な学習の時間の継続中の事後学習にも反映している。

- ・本校教育の特色のひとつが環境教育であるが、この貴重な体験をよいきっかけにして、琵琶湖だけでなく、様々な環境を守る取り組みを進めていってくれることを期待する。
- ・ただ単にやらされている活動ではなく、子どもたちが意欲的に取り組むことができたのは、目標がしっかりしていたということ、子どもたちが目標を持てたということだと思います。
- ・全体の場で、所員の質問に進んで挙手したり、メモを見ず堂々と前を見て発表したりする姿にたくましさを感じた。自分から声をかけ他校の子と触れ合う姿に胸が熱くなった2日間だった。
- ・一步踏み込んで「なぜ」ということを調べることができた。それぞれが学んだことを“みんなの発見”にできるようにまとめることで、相手が興味を持って聞けるように工夫して報告することができた。
- ・郷土の琵琶湖に対する気づきを深め、自ら環境を保護していかうとする大きなきっかけになった体験であった。カムサハムニダ！